

Arakawa City
Art Culture Promotion Foundation公益財団法人
荒川区芸術文化振興財団

▶ リンク集

文字サイズ

小

中

大

トップ > 荒川の人 > No.39

No.39 山下 美晴(やました みはる)

「うれしい下町の温かさ」

剣道2段、女優志願から転身

ケーブルテレビ「荒川区民チャンネル」のリポーター、キャスターとして活躍中。昨年九月開局以来、「タウンレポート」「商店街おじゃまします」の二つの番組を担当して、毎週、区民のための最新情報や地域のさまざまな表情を伝えてくれます。

東京ドームにある「東京ケーブルネットワーク」のスタジオを訪ねました。

—慣れましたか？

それまで荒川区とはご縁がなかったので、はじめのうちは、いろいろ失敗しました。荒川の土手で、「こんなところで野球してる」と言ってしまうたり、店先で白菜を手にとって、「わー重い、中身が詰まってる」と言って笑われたり。でも、みんな温かい人ばかり。焼きいもを食べて行きなよ、うちの焼豚はうまいんだよ、などと言って包んでくれたり。わたし目黒で一人暮らしでしよう、下町の人たちの温かい気持ちうれしくて。

—出身はどちらですか。

静岡県富士宮市です。高校を出てから上京し、専門学校で英語を勉強しながら、劇団通いをしました。女優をめざして。叶和貴子さんの付き人をしていたのですが、縁があって、茨城放送で四年、ラジオ大阪で三年、若い人向けのおしゃべり番組をやりました。聴いてる人たちからはがきを読んだりしておしゃべりするうちに、ローカルメディアの楽しさを知りました。

—映像の仕事はどうですか。

もう毎日が勉強です。はじめのころ「目がテンになっている」といわれました。これは、業界ことばで「台本通りで自分の気持ちが入っていない」、という意味です。キーステーションの全国向けのキャスターとはまたちがう表情、表現を持ったキャスターをめざしています。地域の人たちの身近なレベルで、自分のキャラクターを生かしたい、と思っています。

—東京ケーブルネットワークには三十六ものチャンネルがあるんですね。

荒川ケーブルテレビはその一つで、わたしの仕事の七割は荒川の仕事です。もっともっと大勢の人がケーブルテレビに加入してほしいですね。関心は高いけど加入はまだ、という人もいますが、全然ご存じない方もいるようです。さまざまな情報や、東京ドームはじめいろいろなスポーツ中継、ドラマ、映画、それはそれは楽しいですよ。

—ご自身何かスポーツは？

中学時代から剣道をやっています、二段です。高校（富士宮北高）では主将で、全国的にも強かったですよ。昨年暮れ、南千住第二中学での剣友会の取材に剣道用具持参で行きレポーター自ら試合もしましたが、なかなか強い、といわれました。自分の得意とする分野で仕事をしますと、話も一段と生きてきます。だから、勉強して何にでも挑戦したい、そんな気持ちの毎日です。

—いまの社会について。

若い人たちの気持ちが不安定なのが心配です。非行、校内暴力。すぐに殺人など凶悪な犯罪に結びつくでしょう。根本的に何か原因があるのでしょうか、将来の日本を担う人たちですから、どうしたらいいか、大人たちも真剣に考えなければ、と感じています。

山下さんはAB型。東京オリンピックの昭和三十九年七月生まれの辰年、しし座。運勢も社交的な仕事に向いている、と張り切っています。ただ今、おムコさん募集中です。

読売新聞編集委員・平田明隆

カメラ・水谷昭士

